

病理組織検査報告書

病院ID: 001

2021/01/14

AIRDEC

御中

(受付日: 2021/01/10)

患者名: 白井 カルボ 様 検査番号: 0001

動物種: 猫 品種: mix 検査組織: 左第3-5乳腺

年齢: 13歳 2ヶ月 性別: 避妊♀

診断名 第3乳腺部腫瘍: 乳腺腺癌、 第5乳腺部腫瘍: 乳管拡張、乳腺過形成

組織所見

第3乳腺部腫瘍は乳腺上皮細胞の腫瘍性増殖からなります。腫瘍細胞の異型性はやや強く、核分裂像はやや多く認められます。腫瘍細胞は不規則な腺腔や管腔、篩状構造を形成しながら、もしくは充実性に増殖しています。腫瘍細胞は線維組織の増生を伴いながら浸潤性に増殖しています。腫瘍組織内には大小の壊死巣が多発しています。本標本上、切除辺縁部に腫瘍細胞は確認されず、脈管内浸潤やソ径リンパ節転移も認められません。

第5乳腺部腫瘍はいくつもの拡張した乳管ならびに大型化・増生した乳腺小葉からなります。本標本上、これらを構成する乳管上皮ならびに乳腺上皮に明らかな異型性や腫瘍性増殖を示唆する所見は認められません。乳管内には分泌物の貯留や、一部では少数ながら好中球やマクロファージの浸潤が認められます。本標本上、切除辺縁に病変組織の露出は認められません。

コメント

第3乳腺部腫瘍は乳腺上皮細胞の腫瘍性増殖からなり、悪性に分類されます。猫の乳腺腺癌は基本的に転移性の高い腫瘍とされています。本標本上、切除辺縁に腫瘍細胞は確認されず脈管内浸潤やソ径リンパ節転移も認められませんが、再発や肺などへの転移に対する経過観察が必要です。

第5乳腺部腫瘍は乳管の拡張ならびに乳腺の過形成からなります。このような病変はしばしば腫瘍性変化を伴うこともありますが、本標本上に腫瘍性増殖への移行は認められません。これに関しては切除後は問題ありません。

乳腺の増生物(腫瘍・非腫瘍を問わず)は本症例のように多発することが少なくありませんので、新病変の形成に対する注意が必要です。

上記診断に関してご質問やご不明な点などございましたら、診断医までお気軽にご連絡下さい。

写真1: 第3乳腺部腫瘍の中拡大像(×100)
腫瘍は不規則な腺腔や管腔を形成する乳腺上皮細胞の腫瘍性増殖からなる。

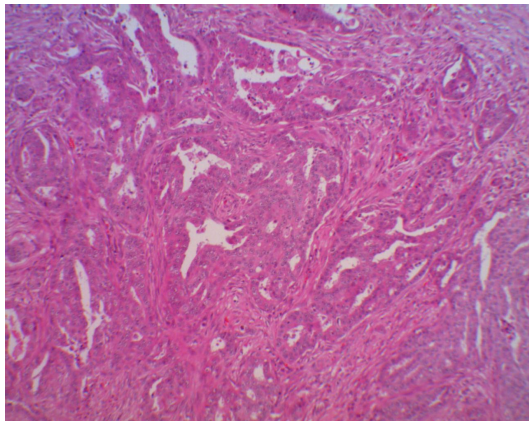


写真2: 第3乳腺部腫瘍の強拡大像(×400)
腫瘍細胞はやや強い異型性を示しており、充実性の増殖も認められる。

